



はなもも

駐屯地司令要望事項
地域と国民のために03 陸上自衛隊演習
「すべてを实任務として行動」

第一施設団は、令和三年十月一日から十月八日までの間、令和三年度陸上自衛隊演習に参加した。本演習は、平成五年以来約三十年ぶりに陸上自衛隊全部隊を対象としての大規模な実動演習であり、作戦準備段階に焦点を当てて、運用の実効性向上と抑止力・対処力を強化する目的で実施され、団は、出動準備訓練、重要防護施設の防護、団指揮所の移転・運営及び古河駐屯地の警備等を実施した。本演習で団は、運用の実効性向上のための検証や教訓を獲得したほか、参加した全隊員が演習部隊として「すべてを実任務として行動」し、所望の成果を得ることができた。



指揮所を朝霞駐屯地に移転し、指揮を執る団長

第一施設団兼
古河駐屯地 最先任上級曹長交代式

「准曹士強靱化の思いを引き継ぐ」

令和三年十月十五日（金）駐屯地宮庭において団隷下部隊長及び古河駐屯部隊曹士参列のもと、第一施設団兼古河駐屯地最先任上級曹長の交代式が実施された。

交代式では、第一施設団長 仲西陸将補が紹介を行った後、最先任上級曹長識別章の引き継ぎが行われた。

下番する第四代最先任上級曹長の海老沢准尉は「上番した三年七ヶ月の中で、隊員の各種訓練・演習場定期整備・災害派遣等の任務遂行に邁進する姿が私自身の自信と誇りに繋がりました。厳しい態度で接した場面もありましたが、隊員の育成・部隊の精強化、そして上級曹長制度の定着の為と思っております。今後、准曹士が一致団結し強靱な第一施設団の創造及び古河駐屯地の躍進に寄与されることを心から願います。」と挨拶した。

上番する第五代最先任上級曹長の芦谷准尉は「将官に仕える最先任上級曹長として身の引き締まる思いであり、歴代最先任が築き上げてきた伝承を継承していきます。昨今の国内外情勢及びコロナ禍の中ではありますが、部隊・個人の精強化を図り、第一施設団長統



駐屯地司令による紹介

率方針である『全ては実任務のために』を具現化すべく足腰の強い部隊育成に尽力するとともに、古河駐屯地においても、自分自身が先頭となり「人生前向き・継続は力なり」を前面に出し、今後困難な状況等にも職責を全うしていきます。」と力強く述べた。

戦没者遺族と
思いを共有

令和三年八月七日

（土）、終戦の日を迎えるにあわせて、修親会及び曹士隊員の有志がボランティア活動として実施した、古河市内にある9か所の戦没者慰霊碑の清掃活動に対し、古河市遺族会の関 章治会長から御礼の手紙を頂いた。

手紙には、忠魂碑（慰霊碑）が楚々とした姿を取り戻したことに對する遺族一同の喜びと、戦没者の後進である隊員有志による清掃を、戦没者も喜んでいるとの思いが記してあった。

次回は、清潔で気持ちよく新年を迎えてもらえるよう、令和三年十二月十八日に計画されている。



修親会活動

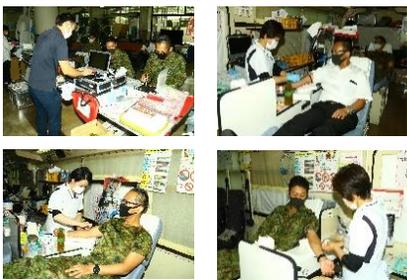
令和三年十月十六日（土）古河駐屯地修親会は古河市と協同し古河歴史博物館の清掃活動を実施した。博物館敷地内の景観を保持するため、樹木の伐採・ゴミ拾い等を実施した。清掃後、博物館の見学をさせて頂き、古河市の歴史を学んだ。今後も古河駐屯地は地域に貢献していく。



古河市長による激励
敷地内の清掃作業

曹友会活動

令和三年九月十六日（木）駐屯地曹友会は、日本赤十字社に対して献血支援を実施した。隊員三十五名が献血協力を行い医療機関へ貢献した。



献血の様子

花壇コンクール

第二回花壇コンクールの優勝は第一〇二施設直接支援大隊花壇の名前は「月夜とつつましい幸せ」



定年退官者の紹介



業務隊
金田准尉
1月6日付



101施設
檜山曹長
1月12日付



団本
海老沢准尉
1月15日付

永年の勤務
お疲れさまでした

新配置隊員紹介



団本付 振屋 1士



団本付 松田 2士



101施設 山下 2士



101施設 高橋 1士



101施設 高橋 1士



101施設 関 2士



101施設 中村 2士



101施設 林 1士



101施設 今野 1士



101施設 増本 2士



101施設 早川 2士



102施設直支 野口 1士



102施設直支 瀧口 2士



102施設直支 加藤 2士



301ダ 久保田 1士



301ダ 掃部関 1士



301ダ 佐藤 1士



301ダ 下村 1士



301ダ 小村 2士



301ダ 高橋 1士



301ダ 宮田 2士



301ダ 鈴木 2士



337高射 岡本 2士



337高射 安田 1士



337高射 坂本 1士



337高射 多久間 1士



337高射 左近充 2士



337高射 五十嵐 1士



古河支処 山口 1士



古河支処 正木 1士



古河支処 宮本 1士



古河支処 上野 2士

「駐屯地トピックス」

自衛隊・古河駐屯地に対する意見や要望等を幅広く聞き取るため、令和4年度防衛モニター及び令和4年度駐屯地モニターを募集しております。

締切

令和3年12月15日（水）

詳しくは古河駐屯地ホームページをご覧ください。



ホームページ

各部隊等の活動紹介



総和1号宿舍床等補修工事



隊務の全体確認時の活発な討議状況



隊舎冷却塔補給水管補修



第3回体力定

古河駐屯地業務隊は、七月二十七日(金)から八月二十七日(金)までの間、任務遂行を継続し得る態勢をより強化するため、官用車両運行時における注意事項、訓練事故の原因の究明と再発防止策及び即応態勢の確立に資する取組み等について各種教育や討議を実施するとともに不備事項を是正させ、隊務運営の全般について確認した。

また、九月三日(金)には第三回体力検定を十四日には第二回小火器射撃検定を実施し、それぞれの練度を評価・判定した。

引き続き、実施率及び合格率百%を追求し計画・練成していく。

この間、二四半期の駐屯地施設の整備として、総和1号宿舍床等補修工事、駐屯地当直司令室空調補修、隊舎冷却塔補給水管補修及びボイラー等圧力容器性能検査等二十二件の整備を実施し、勤務・生活環境の不断の改善を図った。



警備部隊による警戒

十月三日(日)から七日(木)までの間、駐屯地警備訓練を実施した。

本訓練は、駐屯地警備の具体的な実施要領等について実動により検証することを目的とし、所望の成果を収めることができた。

本成果を第一施設団と共有し、駐屯地警備能力の維持・向上を図っていく。



支処隊員の歓迎を受ける新配置隊員

関東補給処古河支処は、九月二日(木)に東部方面会計隊(朝霞)から二名が、九月十七日(金)に第五施設群(高田)から二名がそれぞれ後期新隊員教育を修了し、古河支処に配置され、出迎えの歓迎を受けた。

新配置隊員四名は、支処隊員の歓迎を受ける中、緊張しつつも堂々と行進して、支処長に対し元気一杯な声で申告し、支処長の訓辞を受けた後、支処隊員の前で自己紹介と今後の抱負を述べた。



不審者への対応



申告後支処長の訓辞を受ける新配置隊員



大隊長による精神教育



総合訓練

令和三年九月六日(月)～同年九月十七日(金)までの間、東部方面後方支援隊及び東部方面システム通信群の陸曹候補生二十五名に対し、本部付隊長を教育担任官として教官以下十四名の基幹要員をもって履修前教育を実施した。本教育を通じて陸曹としての必要な資質を養うとともに、陸曹候補生課程履修に必要な共通の識能を充実、向上させた。



後方支援隊後方業務担当者集合訓練

第一〇二施設直接支援大隊は、古河駐屯地において東部方面後方支援隊が実施する各種担当者集合訓練に参加した。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からスカイプによるテレビ会議方式で参加し、情報保全担当者集合訓練については七月、後方担当者集合訓練については八月、人事総務担当者集合訓練については九月に実施され、各業務要領について教育及び認識統一を受け、各担当者の識能向上を図った。

各部隊等の活動紹介

第一〇一施設器材隊は、令和三年九月十三日（月）から同年九月十五日（水）の間、枝川渡河訓練場において、架橋中隊、パネル橋小隊長吉田三尉以下三十二名による渡河訓練（訓練指導）を実施した。

渡河攻撃における想定として師団の配属となった架橋中隊は、第一戦部隊の迅速な沿岸の推進を任務とし、当初は徒橋を架設し普通科隊員をいち早く前進させ、じ後、四舟門橋の運航、引き続き浮橋の架設を実施し、継続的に車両部隊を渡河させた。

訓練に参加した隊員が一致団結し、高い渡河技術を発揮することで与えられた任務を様々な状況下で完遂することができた。



隊容検査



徒橋架設



橋端橋節の展開



4舟門橋の運航

九月十七日付、器材隊に九名の新配置隊員が着隊した。各中（付）隊へ配属された隊員は着隊当初、緊張の面持ちであったが、数か月経った現在、少しずつ部隊の勤務環境に適応しそれぞれの部隊で勤務している。

初心を忘れず、任務達成のため器材隊一同応援するともにこれからの活躍を期待したい。



新配置隊員紹介行事



車装変換及び行進要領訓練



新隊員への通信教育

第三三七高射中隊は、新隊員の配置に伴い、野外行動時における一連の状況下及び機能別訓練を行い野外行動能力の向上を図った。

隊員は、初めての野外行動ではあったが、諸先輩の指導を受け訓練を行い、今後に期待できる人材となった。



LPをクリップにより固定 (第3次中隊集中訓練)



運搬した骨材の集積 (第4次中隊集中訓練)

第三〇一ダンプ車両中隊は、令和三年七月十二日から二十日までの間、第三次中隊集中訓練を岡山演習場において実施し、ライナープレートによる指揮所構築訓練を主体に演練し、練度の維持・向上を図った。

また、八月三十日から九月十日までの間、第四次中隊集中訓練を東富士演習場において実施し、交通作業を主体に、十一月に実施される秋季演習場定期整備の際に必要な骨材を、特大型ダンプ延べ二二二台分、一五〇〇m運搬し、所要任務を完遂するとともに、中隊で保有する施設器材により、演習場内道路の荒廃部分の不陸修正を実施し、演習場の長期安定使用に寄与した。



無線機側からの音声を集めて聞き取る隊員



真ん中が大川陸曹候補生(同中隊の入校者と一緒)

第三二〇基地通信中隊 古河派遣隊は、要地通信の支援を実施した。

野外無線機と駐屯地内線をつなげる骨幹として、雑音の中からいち早く音声拾い、内線者への迅速な接続を実施した。

また、九月に履修前教育課程を修了した大川陸曹候補生は、陸曹としての必要な技能を身に付けるため、第三陸曹教育隊に教育入校した。

陸曹となって戻ってきた暁には、若手3曹として陸士のお手本となる活躍に期待したい。



隊容検査



行進訓練

第三四一会計隊は、十一月上旬に実施される総合訓練及び十二月中旬に受閲する方面訓練検閲に向け、駐屯地内で各個訓練を行った。

本訓練は主として若年隊員に基本・基礎動作を習熟させる目的で実施したもので、隊容検査・行進訓練について実施した。

平素は事務室における会計業務が主であるため、慣れない訓練ではあるが、若年隊員の練度は確実に向上しており、隊としての戦力化を図ることができた。